

Vol. 15

発行
郡上八幡国際友好協会
事務局
郡上郡八幡町総合政策課内
☎0575-67-1122



GIFA平成十三年度総会

五月三十日に郡上八幡国際友好協会の総会が開催され、平成十二年度事業報告・決算認定及び平成十三年度事業計画・予算決定、役員改選が行われ、いずれも原案通り可決されました。総会后、海外青年協力隊員として二年半ジンバブエ共和国に派遣されボランティア活動をされた三島弘美さんを講師にお招きし国際理解学習会を開催しました。

○フィリピン青年代表団合宿セミナー派遣
○世界の料理を楽しむ会の開催
○やさしい英会話教室の開催
※その他、新パンフレットの作成やIT時代に対応した情報発信の窓口としてホームページの開設等に取り組みことになりました。

＜新三役の紹介＞坂本会長から
鷺見新会長にバトンタッチ

○会長 鷺見 幸彦
副会長 上田 謙市
(八幡町新町 六五―二〇二)
(八幡町今町 六五―二四三六)
山田 弘美
(八幡町初納 六六―二二五〇)
○専務理事 辻 治美
(八幡町今町 六五―二〇七七)
○書記会計 藤田ヒロ子
(八幡町穀見 六六―一〇七四)

○国際理解学習会の開催
○岐阜大学短期留学生の受入
○ドイツ青年派遣の助成

※国際理解に造詣が深く、長年、郡上八幡国際友好協会役員として国際交流に尽力されました坂本由之会長、廣瀬泰三副会長が退任されたことは寂しい限りですが、これまで築かれてきた草の根の交流活動を今後引き継ぎつつ、新メンバーの協

力と経験豊かな先輩方の教えを仰ぎながら、若い力で新たな事業にもチャレンジしていきたいと思います。

〔第一回国際理解学習会〕『ジンバブエ滞在記』



英国連邦からの独立をめぐっての十五年間の内戦の後、独立を果たし僅か二十年という南アフリカ大陸に位置する小国―この発展途上の国『ジンバブエ共和国』の人達の生活が豊かになることを目指して一九九八年七月～二〇〇二年二月までの二年半、青年海外協力隊員として派遣され、換金作物の栽培について研究、技術指導をされた三島弘美さんの講演を伺う機会に恵まれました。



主産業は葉タバコ等の農産物中心、人口の七割が農村生活者ですが近年、都市への人口流出に伴う生活環境の悪化、失業率の増加、インフレ率の上昇等さまざまな問題を抱えながらも、陽気で、みんな支え合い、明るくたくましく生きていく人々の生活ぶりが、

貴重な体験談や写真を通して強く伝わってきました。「帰国し成田空港に降り立ち、経済大国にあつて、あらゆる物質に恵まれた日本人の顔が、全然幸せそうでなく、憂鬱そうで疲れている感じがした時、人の幸せは一体どこにあるのかを考えさせられた体験でした。」という言葉で三島さんは講演の最後を締めくくられました。穏やかな口調の話しぶりの中に、私たちに考えさせることを、たくさん投げかけられた講演でした。

● 伝 言 版 ●

青年海外協力隊募集説明会開催のお知らせ

あなたの技術・経験・情熱を開発途上国で活かしてみませんか。県内各地で募集説明会を開催しています。予約不要入場無料、是非ご参加下さい。

＜説明会場・日時＞

11月14日(水) 18:30~20:30 岐阜市グランパレホテルにて

● 応募締切: 平成13年11月20日

● 問い合わせ先: JICA中部国際センター・アネックス TEL 052-221-7103

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-4-7

岐阜大学サマースクール 留学生受け入れ事業

平成13年7月13日(金)
～7月16日(月)

スエーデンソンド大学生 12名
韓国ソウル大学生 5名

岐阜大学で一年間留学している留学生たちの四日間のスペシャル講座です。

八幡町、大和町、白鳥町の15の家庭に受け入れてもらい4つの文化体験講座と郡上おどり体験をしました。

- 13日 茶道・書道
ウエルカムパーティー
- 14日 座禅・切り紙折り紙
郡上踊り発祥祭参加
- 15・16日
ホスト家庭とともに過ごす

留学生の母さんは日本人でした

先ごろは、大変貴重な体験をすることができ本当に喜んでいきます。私たちの家庭に来てくれた子は、お母さんが静岡の方で日本語もかなり話すことができ、話題も作りやすく大変ラッキーだったと思います。何でも食べることができ、「何が好き」と聞くと、カレーライスとかマーボ豆腐とか焼きそばなどと答えてくれたことで、すごく親しみを感じることでもできました。特別のご馳走は何にもしませんでしたが、何でもおいしいおいしいと食べてくれました。

こうしたホスト家庭の体験には、興味があったものの、初めての体験で、どう接すればいいのか不安でしたが、幸い三人の子どもが、私たちとの立ちを上手くしてくれたようです。英語の勉強になるからなども考えてお受けしたのですが、そんなものではなく、もっと基本的な人と人の心のふれあいのできた事は、子どもたちにとっては、特に良かったと思います。小学二年生の子どもは、今まで知らなかったスエーデンという国、ストックホルムという街を知りました。こうした経験を通して、自分の世界を広げていってくれ

ばと思います。

(渡辺修司さん)

何度やってもすばらしい ホストファミリー

スエーデンの二十一歳の女性・ジェニーさんをお預かりしました。大変楽しくてあつという間に四日間が過ぎました。彼女が一番喜んでことは、やはり初めて浴衣を着て郡上おどりを踊ったことでした。そして家族の中で一番喜んでいたのは、たぶん高校一年生の長女だったと思います。英語を使ってみるいい機会を与えられました。偶然にもホームステイ期間中に英語検定試験の受験があり、ジェニーさんが良い先生になってくれました。ジェニーさんありがとうございます。

二日目に座禅の体験がありました。日本人でもなかなかやる機会がない」と話す、「今度教えてあげます。」と、

一本取られてしまいました。

三日目は、

ジェニーさんと中学一年生の次女と小学三年生の長男と一緒に高鷲の「牧歌の里」に行きました。もちろん八幡の街の中も案内しましたが、同じ郡上の中でも所によってこんなに気候が違うことも知ってもらおうと高鷲まで行きました。(実はあまり暑いので涼を求めて行きました。)昼食に、レストランで、ジェニーさんは使い慣れない箸で食べ、子どもたちもまた使い慣れないフォークとナイフで食べていたので、思わず笑ってしまいました。

仕事の都合でお見送りできなかったことは、残念でした。ホームステイは、今まで何回もお受けしたことはありますが、今まで一度もやらなければ良かったと感じたことはありません。皆さんも是非機会があったら、引き受けてみてください。(細川竜弥さん)

高山へも出かけました

ホスト家庭を体験したのは、これで二度目ですが、最初はもう何年も前のことになります。

今回は、三泊四日という短期間でしたが、仕事が一繁忙しい時期で思い悩んでいました。ところが、子ども二人



▲やっぱり食事がファミリーの原点 (渡辺拾八郎さん)



▲孫と一緒に池の掃除のお手伝い (山田忠平さん)



京を求めて (正文さん)





▲近所の小2のゆうちゃんが遊びに来ました
(片岡 浩さん)

が「預かりたい」と言います。彼女たちしてみると、幼い頃、外国の人と生活したことが、とても楽しくいい思い出になっているというのです。

今でも、その時受け入れた学生のことを思い出し、「マルコム元気かな。何しているんだろう」と口にするほどです。彼女たちには後押しされ、日常生活の多忙さも「何とかなるか」と拭きされました。対面式のセレモニーは、私は仕事の都合で参加できませんでしたが、主人と娘二人が出席し、楽しいひと時を過ごさせていただきました。また、我が家に来てくださる学生さんとの対面の瞬間には、とても緊張したと話してくれました。主

人も仕事柄、英語で会話できるのが、嬉しいようで今回は忙しい忙しいと口をせせず、仕事の都合を付け、ホストとしてがんばって取り組んでくれました。

主人は毎晩お酒を酌み交わしながら深夜まで主に英語で、会話を楽しんでいました。子ども二人は、何かにつけ話しかけ、言葉が通じない時は、ジェスチャーでボディーランゲージを展開していました。

高山の人力車に、学生さんと二人の娘と友達の五人で乗りました。五人の笑顔がとても素敵だったことが忘れられません。

忙しいのはどこの家庭も同じだと思います。しかし、こうして忙しさの中からも貴重な体験が生まれ生活が潤うのだと確信できました。本当にすばらしい体験ができました。こうした機会を与えていただき、ご尽力いただきました皆さんに深く感謝申し上げます。(若山 栄さん)

□ ホスト家庭がベジタリアン(菜食主義)で一度も肉系統のものを食べられなかったが、こういう人もいるのだと初めて知った。

□ 休みの日でも、この週は外出を予定してないのでお話をしましようという事で、分からない会話に四苦八苦し



▲何といても浴衣の人気は一番(山田武邦さん)

□ ホスト家庭の夕食はいつも九時で、腹はすいたが、ホストファミリーと一緒に食べる事がとても楽しかった。

□ ホスト家庭の夕食はいつも九時で、腹はすいたが、ホストファミリーと一緒に食べる事がとても楽しかった。

以上のような色々の体験を羅列してみました。要するにホスト家庭とは、特別の事をしてやろうとするのではなく、個々の家庭の生活サイクルの中

が、一人増えていくので、一人分増やそうかという感覚であれば良いのではないかと思う。少なくとも、海外でも、皆が皆ではないかもしれないが、自分の生活サイクルを大切にしながら折角来てくれたのだから気持ちよく会話をすることで、互いの国の事を少しでも知り合う事を、大切にしているのではないかと思う。日本のホスト家庭は、少し気を使い過ぎるので、もう少しホスト家庭主導で接してやった方が良いと思う。最後に一人でも多くの方にホスト家庭に挑戦して頂きたいと願っております。(山田武邦さん)

ホームステイの参考になれば



▲猛暑の夏(水野)

これからホスト家族をしてみたいと思われる人や、自分の子どもがホームステイをする予定ある方々の参考になればと思い、明宝中、白川中で勤務した平成4〜8年の間に、生徒たちが海外研修で体験したこんな事あんな事を書いてみます。

□ 食事については、何も聞いてくれず、ホスト家庭の出されるままに訳の分からない初めてのものを食べたという体験が良かった。

□ 送り迎えをしていただく予定だったが、都合がつかないので、バスで行きなさいといわれ困ったが、何とか自分の力で目的地に着けた喜びがあった。

ピーターからのメールより

こんにちは！

8月1日はスエーデンに帰るけど日本はとっても楽しいから実は帰りたくない気持ちだけどスエーデンに会いたい多くの友達もいるので……。

来年また日本に来たら本当にハハ行ってみるです。またね

ピーター

